

福井駅周辺地区交通戦略 第1回検討部会 議事録(要旨)

日 時:令和2年10月19日(月) 午前9:30~午前11:00

会 場:福井市総合ボランティアセンター研修室

出席者:福井駅周辺地区交通戦略検討部会

川本 義海 部会長(国立大学法人福井大学 学術研究院工学系部門 教授)

岩崎 正夫 委 員(まちづくり福井株式会社代表取締役社長)

加藤 幹夫 委 員(福井駅前五商店街連合活性化協議会長)

黒田 浩英 委 員(福井市都市戦略部交通政策参事官兼交通安全参事官)

事務局:福井市都市戦略部都市整備課

【議事内容】

○事務局より

部会長、及び各委員へ委嘱状を交付した。

その後、部会長及び各委員を御紹介し、議事へ移った。

以降は、川本部会長により議事を進行した。

○部会長

先日開催された、第2次福井市都市交通戦略第2回協議会にて、福井駅周辺を含むまちなかを対象に、「歩く」視点に主眼を置いた交通戦略を策定することとなり、本検討部会を組織して議論することになった。協議会の会長も務めているが、本検討部会の部会長も務めることとなった。委員の皆さんにご協力いただききたい。また、活発な御議論をお願いしたい。

それでは、議事次第に沿って進める。

○事務局

事務局より資料に沿って説明

- ・地区交通戦略の位置付け
- ・福井駅周辺部を含む区域におけるこれまでのまちづくりの取り組み振り返り
- ・交通量の変化(自動車交通量・歩行者自転車通行量)
- ・道路の性格付けに向けた考え方の整理
- ・地区交通戦略において立案する施策の方向性
- ・地区交通戦略の構成、骨格

○委員

自動車交通量に係るデータについて。中心市街地における交通量が減っているのは事実だと思うが、大和田地区周辺のデータについても関連性を検証すべきではないか。

まちなか中心部における駐車場は、全体として不足しているのではないかと思う。3,000台は必要だという声もある。

まちなか中心部へ来られる方の8割は車で来られる。市の取り組みが公共交通の利用促進に偏っていないか。

ヒゲ線延伸についても、功罪両面があったと思う。時間当たり6本あった運行が4本に減ってしまった。また、延伸の結果、電車通りでの停車ができなくなったことによるイベント実施等への影響もあったのではないかと思う。

○委員

中央1丁目区域で、駐車場は約1,200台程度設置されているかと思う。これで十分だとは思っていないが、一方で、平日の稼働状況のことも考えなくてはならない。台数のことだけでなく、中心市街地へ来る目的を作ることも一緒に考えるべき。ショッピングだけが中心市街地に来る動機ではなくなっているのではないかと思う。

ハピリンのイベントもだんだんと飽きが出てくると思う。まち全体での取り組みが必要になってくるのではないか。

○部会長

駐車場の設置台数増については、賛否両論あると思う。現状だけを見て議論するのではなく、将来の姿も踏まえながら議論されるべきだと思う。

交通量の動きについては、別途整理していただきたいが、事務局からコメントはあるか。

○事務局

交通量についての検証は別途整理させていただく。大和田エリアの交通量については、大規模な駐車場が併設されたエルパとその周辺の商業施設の立地が進んだことが交通量増の要因だと考えられるが、土地区画整理事業が進捗し、住宅等の立地が進み、居住人口が増えたことも、要因のひとつではないか考える。

○委員

駐車場について。全体的な台数が不足しており、増えてもらいたいと思うが、一方で、まちなかの駐車場収益のことだけを考えて、安易にコインパーキングの設置に走ることは良くないと思う。行政においても、土地を集約して立体、高度化を図る検討を進められるような誘導をすべきだと思う。

また、駐車場条例における附置義務が厳しいという声も聞く。このことがネックとなって、まちなかへの進出計画を断念していることにはなっていないか。附置義務条例の制度や、隔地駐車場の適用要件見直しについても検討すべきではないか。

○部会長

確かに、最近まちなか中心部でコインパーキングが増えている。委員からの御意見の通り、土地利用形態として決して望ましいことではないが、車で訪れる方の駐車の受け皿になっていることは事実だと思う。

駐車場に関する施策をこの地区交通戦略の中で取り上げるかどうかは、事務局で一定の整理をしていただきたいと思うが、事務局からコメントはあるか。

○事務局

駐車場政策に限らず、中心市街地における土地の集約化、高度利用化への誘導については必要なことだと考える。また、低未利用地の利活用という面では、市街地総合再生計画とも連動するところもあると思う。

附置義務駐車場については、現在、中央1丁目界限では隔地駐車場を認めているところ。新たな緩和等制度の見直し改変については、建物更新の動きのことも踏まえながら、整理する必要があると考える。

○委員

浜町や養浩館、足羽山へのアクセス、回遊性も考えないといけない。植栽や電線地中化も考えてうべきではないか。駅に着いたらすぐにみられる VR なども考えたらいと思う。いずれにせよ、歩き回る動機付けが重要だと思う。北九州市小倉の例だが、「小倉城まであと 100m」などの標示を路面、横断歩道の歩行者溜まりなどに表示しており、これも一つのアイデアだと思う。駅周辺地区の歴史遺産をどう伝えていくかも大事だ。

○部会長

まちづくりと交通を一体的に考えるのが地区交通戦略のテーマ。それぞれ単体での取り組み施策の立案ではなく、まち全体で取り組む施策を考える時代になってきているのだろうと思う。

○委員

娘が 3 人いるが、3 人ともまちなかへは行かないと言う。なぜかと問うと、まちなかへ行っても買うものがないとのこと。魅力がないと人は集まらないと思う。特に、「歩きまわる」という点では、若年層にいかにかまちなかへ来てもらえるかが重要。若年層が集まる魅力づくりをしたほうがいい。

自転車について。現在は三角地帯の一部が自転車通行不可になっている。専門分野である交通安全の観点からは、再開後の自転車通行ルート、自転車通行してもよい区間を検討すべきではないかと考える。

○委員

まちなかでは、以前にも「押しチャリ運動」を呼びかけたがなかなか浸透せず、難しかったと記憶している。

自転車の押し歩きが発言のきっかけになったが、自転車通行だけに限らず、徒歩も含めて、中央大通りの南北往来がしづらいと実感。大名町交差点か県庁入口交差点を経由するしかない。ここに、中央エリアと大手エリアの隔離感があると思う。

○部会長

中央大通りの南北横断は、横断箇所数も限られてること、また、横断距離が長いことから、感覚的にもまちなかエリアを分断しているように感じる。「歩く」、「歩き回る」という観点からは、何らかの工夫が必要だと思う。ぶらりと行き来するような状況ではない。大名町交差点か、地下道か、県庁入り口交差点の 3 箇所しか横断できず、しかも横断の距離が長い。今後の施策検討の中でも議論されていく課題だと思う。

○委員

駐輪場の設置計画はあるか。

高架下の駐輪場について、放置車両や停め方も乱雑に感じる。マナー向上を促すためにも有料化の導入を考えてもいいのではないかと。

○事務局

高架下駐輪場はピーク時で 1,800 台程度の利用。東口側の仮設駐輪場を含めると、2,000 台以上の収容は可能となっている。新規には、駅南側への駐輪場設置を検討中。併せて、再開発事業施行者に対しても駐輪場設置を要請している。

歩行者動線に加え自転車動線についても検討する。駐輪場分布やネットワーク、自転車の動線のことを念頭に置いて考えたい。

○部会長

駐輪場の分散化、配置については自転車動線のことも含めて検討が必要。駐輪場のサイズや台数の議論だけに論点を絞るのではなく、設え、景観のことについても考えるべき。外部からの見え方についても検討、配慮するべきであり、そのための費用に充てるために、駐輪場の有料化という選択もあり得るのではないか。

○委員

歴史のみちについて。各施設には魅力もあって面白いが、つなぐルートは歩いていて面白みが感じられないと思う。道そのものや景観も含めて歴史のみちととらえて整備を進めていっていただければと思う。特に、養浩館周辺で芝原用水が暗渠化されているが、それを開渠に戻して水の流れを見せるとか、城址周辺のお堀の名残を中央1丁目界隈で見せると、現在の城址、お堀含めて福井らしさを感じることができ、歩きながら歴史を感じてもらえる仕掛けの一つになるのではないか。

田原町や呉服町など、まちなかの住宅街に用水路が流れ、鴨が泳いでいる風景が県外客にも好評だった。

街区側でも、セットバック空間の整備に笏谷石を使うなど、設えを意識して取り組んでいる例もある。

○事務局

歴史のみちについては、今年度もお堀北側での整備を進めている。

水辺空間について。国営農業排水事業で地下にパイプラインを整備したが、景観用水ということで開渠の区間にも用水を流している。水が流れる水辺空間というものは大切にしたいと考えている。用水についても、パイプラインで福井市中心部まで到達することから、以前に比べて水温も低く、他からの流入がないので環境は良くなっている。

細い水路や裏路地を活用した歩き方など、都会の方には好評。そういうところを歩いてもらうのもいいと思う。

○部会長

まちなかを歩くことについて。「まちなか歩きが楽しくなる」とはどういうことかを考えてほしい。歴史、自然などを利用した見せ方を考えるべき。これは行政だけ取り組むものではない。例えば、地域活動の実践の場、形を残す場にしてみたいのではないか。まちへの愛着にもつながるのではないか。

○事務局

施策については行政だけの取り組みだけでなく、官民連携を意識して、民間が担う取り組みも含めて考えたい。

○部会長

観光バスについて。新幹線開業後は福井駅が観光バスの発着拠点になるのではないか。観光バスの乗降ブースが現状で足りているのかどうか。東大通りにもブースが設けられているが、それでいいのかどうか。どうも、西口に比べて東口は手薄になっているように感じる。

○事務局

バスの件は、二次交通全体の話として、利用者への案内も含めてどういう形が望ましいか、検討

が必要だと考えている。

東口側は新幹線の玄関口となり、利用者にとっての利便性向上に向けた取り組みについて、引き続き検討する。なお、公共交通や二次交通については都市交通戦略において検討することとし、地区交通戦略はまちなかでの「歩きたくなる環境」ということを中心に考える。

○部会長

地区交通戦略の構成、施策の方向性整理にあたっては、今回の検討範囲をみたときに、城址周辺や電車通り周辺とでは環境も違うので、検討範囲をゾーニングをして、整理してもいいのではないか。

○事務局

今回の検討範囲 66haをさらにゾーニング化したうえで、歩行者動線、自転車動線をどう設定するか検討し、66ha全体へフィードバックする考え方で整理したい。

○部会長

各委員の皆様には、活発な議論を頂いた。お気づきの点あれば、事務局へ連絡をお願いしたい。

議事進行に御協力いただきありがとうございました。本日の議論を踏まえて、次回も活発な議論をしたいので、引き続き協力いただくようお願いしたい。

○事務局

部会長、ありがとうございました。

次回については、あらためて事務局から日程調整させていただきたい。

本日は長時間にわたりありがとうございました。

～以上～